

济生会江津総合病院・令和2年度の取り組み状況

令和3年3月 济生会江津総合病院

○济生会江津総合病院では、H31年3月からR2年2月の間に開催した「济生会江津総合病院の抜本的経営改善に係る協議会（浜田圏域公立・公的医療機関2病院の機能分化・連携のあり方検討会）」での検討を踏まえ、

①将来的なダウンサイジング

②浜田医療圏での連携強化

③地域住民のニーズへの対応

について、継続的に検討し取り組みを実行することとしている。

さらに、行政や介護施設と連携し、浜田圏域における高齢者医療介護サービスの拠点施設としての役割・位置づけを明確化していくこととしている。

○R2年度については、この方針に沿って以下の取り組みを実施した。

1. 江津市地域包括支援センターの院内移転

江津市とR3年5月に江津市地域包括支援センターを院内へ移転することで合意し、地域連携・医療介護連携の拠点施設となるよう院内改修を実施

2. 訪問リハ事業開始(R2.10～)

これまで訪問リハについては、济生会グループの高砂訪問看護ステーションを拠点に実施してきたが、今後在宅でのケアを充実させていくため、当院に訪問リハ事業所を設置し事業を開始

3. 在宅医療介護地域支えあい事業

当院の地域医療コーディネーターを中心に地域の開業医との連携に関し以下の取り組みを実施

・看取り代診医システム運用開始(R2.11～)

・まめネットを活用した予約システム運用開始(R3.2～)

4. 浜田医療センターとの連携強化

浜田医療センターが8月から一部の病床を休止したこともあり、回復期、慢性期の当院への転院患者数が倍増

・新規転院 R1年度:29名⇒R2年度:57名(1月までの実績)

○経営状況

- ・上半期は、患者数減や手術延期等により損益は赤字となったが、9月以降入院患者数が増加基調となり、11月以降は病床稼働率が95%を超える状況が継続
- ・さらに、県からのコロナ対策関係補助金等の収入増もあり、第3四半期には通年で黒字となり、3年連続黒字決算も達成可能な状況
- ・一方、H18年度に病院を新築移転した際の借入金の償還がR6年度まで重くのしかかり、さらには設備・医療機器の多くが老朽化しており、修繕・更新に今後多額の経費が発生すると見込まれ、資金繰りは厳しい状況が続く
- ・加えて、医療従事者の不足(医師、看護師、薬剤師など)は続いており、人材確保ができない場合には、一時的に運用制限を掛けざるを得ないギリギリの状況

○新型コロナウイルスへの対応

- ・コロナ専用病床設置 休止病床を活用しR2.8～8床届(県指定の即応病床6床)
- ・地域外来検査センター設置(R2.12～)
- ・少年自然の家への看護師派遣協定(現時点で派遣実績なし)

○R3年度の取り組み予定

- ・当面は、通常の医療サービスに加え現在のコロナ対応を継続していく必要があり、浜田医療センターの運用状況等も踏まえると、当院がダウンサイジングを積極的に進めていく状況にはない
- ・コロナ終息後に向け医療需要の動向を見極め、医療機能の在り方や圏域における役割分担・連携について、引き続き検討するとともに、地域包括ケア推進に向け取り組んでいく